

大分県

1. 商品名等

商品名	おに 鬼おんちっぷす		
商品写真(イメージ等)			
商品説明(コンセプト等)	<p>国東地域に伝わる「鬼文化」は「鬼は福を連れてくる」「仏の化身」との言い伝えがあるほど独特であり、暮らしに身近な存在です。「鬼おんちっぷす」は、特製スープに一晩漬けた地元産の玉ねぎを、プレス機を使って手作業で丁寧に焼き上げます。油で揚げた類似商品はありますが、ノンフライ、低カロリーが本品の特徴です。「玉ねぎが苦手な人でも美味しく食べられるように」と試行錯誤の末、ブラックペッパーのピリ辛味に決めました。鬼のまち国東の高校生が考えた「鬼おんちっぷす」。新感覚スナック！おつまみ、おやつに最適です。</p>		

2. 学校紹介

学校名	大分県立国東高等学校双国校	電話	0978-82-1131
住所	大分県国東市国見町中 1350	F A X	0978-82-1132
担当者	渡邊 司	島末 立	
U R L	http://kou.oita-ed.jp/soukoku/		
E-mail	a32031@oen.ed.jp		

本校は、平成20年に国東農工、国東高校、双国高校の3校が発展的統合し誕生した大分県立国東高等学校の双国校として新たなスタートを切りました。県下で唯一、1人1台タブレットPC (iPad mini) が導入され、校内のどこからでもインターネットに接続できるネットワーク環境の整備や普通教室に単焦点プロジェクタと電子黒板が設置されるなど恵まれた環境の中でビジネス教育に取り組んでいます。1学年1クラス(全校生徒38名)という超小規模校ゆえの特色を活かし、少人数指導や個別指導に力を入れ、上級資格の取得につなげる学習指導にも取り組んでいます。2・3年次は自分の取得したい資格に合わせた科目選択が可能です。本校の特色ある取り組みの一つが、国東市・国東市商工会・双国校の官商学連携事業「地域ソーセイプロジェクト」による商品開発です。双国校生と地域の大人が一体となって国東地域の“みりょく”を発信する商品開発に取り組んでいます。

3. 実施科目等

科目名	3年課題研究	単位数	3単位
対象生徒	10名	担当教員数	2名

4. 予算関係(費用)

大分県教育委員会「地域の高校活性化支援事業」

5. 開発経緯等

国東高校双国校は、地域の特産品を使った商品開発を通して「地域を知り、地域で学び、地域に貢献する」学習活動を行っています。2018年1月から、国東市（行政）と国東市商工会（地元事業者）と双国校（学校）の3者が連携した「地域ソーセイプロジェクト」を展開し、“くにさき”をPRする商品開発に取り組んでいます。3者それぞれが抱える課題（国東市：人口減少・若者定住、商工会：地場企業の活性化・後継者育成、双国校：実践的学習と地域貢献活動をPRした定員確保）を解決し、活気ある地元“くにさき”の実現を目指すプロジェクトが「地域ソーセイプロジェクト」です。

現在、市内の4社（飲食店・菓子製造業・七島蘭加工・創業支援）が連携企業として商品開発に携わっていただいています。今回は、国東の「鬼文化」に「国東の食材」を掛け合わせた商品の開発に挑戦しました。

私たちは、商品開発を通じて、地域の文化や特産品、観光資源について深く学ぶことができました。また、地元で頑張る若い経営者の方と一緒に商品開発に取り組めたことはとてもよい経験と出会いになりました。

H30.1 国東市・国東市商工会・双国校 3社連携調印式

H30年度

- ・連携企業講義による講義 全6回
- ・国東市商工会による商品開発講座 全2回
- ・連携企業見学 全2回
- ・商品検討会 全8回

- ・生徒による対面販売（H30年度実績）
 - 9/22 テストマーケティング（大分市 歩行者天国イベント）
 - 12/9 国東市ふるさと祭り（国見町 ちよるちよる祭）
 - 12/25 博多販売（福岡市博多区 九州広場）
 - 3/10 OAB CM大賞イベント 出店（大分市）

6. 販売形態・期間

④
・
無

- ・国東市内の道の駅（くにみ・くにさき）、別府海地獄、大分銀行赤レンガ支店内 大分メイドで常時店頭販売中
- ・県内外イベント等での生徒による対面販売（双国マーケット）も実施中

7. 協力者等

④
・
無

本商品は、国東市・国東市商工会・双国校の3者連携による「地域ソーセイプロジェクト」により開発されました。

8. 商標登録の有無

有
・
無

9. 今後の課題・展望等

今後の課題は、販路拡大です。商品の認知度の向上と県外での販売機会を増やしたいと考えています。また、お土産物として認知していただくような取り組みが必要だと考えています。

今年度は、他県の商業系高校との商談会や新規の県外販売実習を計画しています。

「鬼おんちっぷす」を通してたくさんの方に国東の“みりょく”を伝えたいと考えています。